

西蓮溜

(さいれんだめ)



全景



西蓮溜堤体の桜

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県犬上郡甲良町

□ため池の特徴

西蓮溜は、1700年頃、正楽寺地区の慢性的な水不足を解消するために地域住民の手で造られた歴史あるため池で、現在でも10haの農地を潤しています。

数十本の桜が植えられており、正楽寺地区はもちろん甲良町内でも桜の名所として知られ、春には花見で賑わっています。

隣接する勝楽寺は、室町時代に足利尊氏の知将として活躍し、能・狂言・茶・華道などに秀でた佐々木道誉の菩提寺です。毎年5月には地域が主体となって「バサラ道誉まつり」が開催されています。

正楽寺区公民館主催の魚釣り大会が開催され、また散策路として遊歩道も整備されており、西蓮溜は、地域住民の憩いの場所ともなっています。

関連情報

八楽溜

(はちらくだめ)



全景



堤の桜

江戸時代から続く“オオギ漁”



ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県東近江市

□ため池の特徴

大沢町は、元和2年(1616年)帰農した武士たちが原野を開墾して集落と農地を作ったものですが、周囲の村から用水の供給を受けることができなかったため、彦根藩に願い出て八楽溜を築造してもらった歴史があります。

築造以降、ため池の補修工事は手間賃からクギ1本に至るまで藩の費用で賄われたことが、古文書に記録されています。現在でも水田を潤しており、また農家1戸当たりの耕作面積が地域で最も大きく、八楽溜は大沢の農業の礎であり続けてきました。

中央に弁天島が設けられた池は、周囲の田園風景にとけ込んだ農村景観を形成しています。

堤には約40年前に植えられた桜が咲き誇り、桜の名所となっているほか、八楽溜親水公園を会場に「八楽夏まつり」や「八楽溜水上運動会」が行われ、近在から多くの人を訪れます。

江戸時代から4年に一度行われてきた伝統漁法の「総つかみ・オオギ漁」が、平成10年から地元の「郷づくり活動」の一環として復活しています。これは池の底に溜まった泥を巻き上げて流す「泥さらえ」の際に魚つかみをするもので、一時中断していました。

池にはシラサギ、カイツブリ、マガモなどの鳥類をはじめ、葦、ガマなどの植物、魚類など合計106種の生物が確認されています。

関連情報

ほっと・おおざわホームページ

<http://members.e-omi.ne.jp/oozawa/>

庵用津溜

(あんようづだめ)



全景



近景



総合学習の状況

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県日野町

□ため池の特徴

庵用津溜は、江戸時代以前に築造されたため池で、山田甚吉翁が頼母子講をつくって改修費を支弁されたとの記録があります。

現在、国の日野川土地改良事業5211haの農業用水源として位置づけられ、約40km離れた琵琶湖から送水される用水のファーム Pond として利用されています。

地域とのかかわりでは、日野町立桜谷小学校の生徒が総合学習の時間を利用して、魚のゆりかご水田学習会やため池の生き物調査を行い、ため池の機能や田んぼの役割などについて学習しています。

また、地域住民一体となってため池の保全整備活動に取り組んでおり、住民が参加して管理用道路の整備等を行っています。

関連情報

西池

(にしいけ)



全景



ハス群落



野鳥の観察小屋

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県長浜市

□ため池の特徴

西池は、古代大和朝廷の時代、蘇我氏と争い、密かにこの地に落ち延び隠棲していた物部守屋が、干ばつに苦しむ農民のために作らせたと伝えられる歴史あるため池です。

日照りになると、人々は田桶を担いで池の土手まで来て、盛り土のないところからやっとの思いで水をくみ上げて田に入れたと伝えられています。

今でも湖北用水の農業用調整池として、57haの水田用水に利用されています。

春のソメイヨシノ、夏のハス、冬の雪とカモなど豊かな生態系による美しい景観を楽しむことができます。池の西側にはスギ、ヒノキ林やコナラ林が混在し、東側の堤体にはソメイヨシノ、池の中にはハス群落やヒシ群落など94種の植物が確認されています。

また、オシドリなどの水鳥類の他、ゲンジボタルなど111種の生き物が確認されています。特に、オヒシクイは、西池が日本での南限渡来地であり、学術的にも重要視されています。

「守りたい育てたい湖国の自然100選」にも選ばれており、望遠鏡のある観察小屋で気軽にバードウォッチングを行うことができます。

関連情報

滋賀のため池50選ホームページ

http://www.pref.shiga.jp/g/noson/tameike-nigiwai/select-50/44_nisi.htm

三島池

(みしまいけ)



全景



春の風景



マガモの飛来

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県米原市

□ため池の特徴

三島池は、1200年代に造られた歴史あるため池で現在も農地20haを潤しています。

池は水鳥の楽園であり、また冬の逆さ伊吹山が美しく、散策路も整備され、市民の親水空間として活用されています。

池には、マガモが例年10月上旬から下旬にかけて飛来します。1957年、2年間にわたる大東中学校科学部の研究により、三島池がマガモ自然繁殖の南源であることが確認され、生物分布上貴重な発見となりました。その結果、県指定の天然記念物となり、永く保護されることとなりました。

三島池にはコイ、フナなどの魚類や水生昆虫も多く、また、池から注ぎ出る用水路にはゲンジボタルが綺麗な光を醸し出し、県内外から多くの観光客が訪れます。

この池には、言い伝えとして、その昔、この地の代官佐々木秀義がこの池を掘ったが水は出てきませんでした。一人の女を生き埋めにすれば水が湧出するという水神のお告げに従い、代官の乳母比夜叉御前が生きながら池底に入るとたちまち水が溢れ、その後、年中水が絶えることがないという伝説があります。

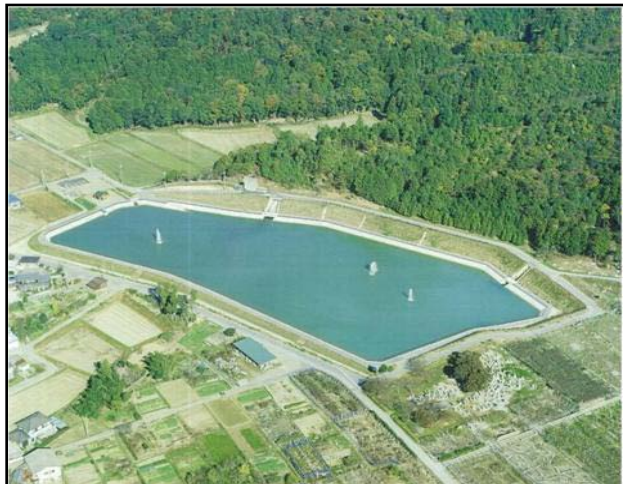
関連情報

滋賀のため池50選ホームページ

http://www.pref.shiga.jp/g/noson/tameike-nigiwai/select-50/40_msmi.htm

竹原調整池

(たけはらちょうせい池)



全景



調整池に設けられた噴水

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県愛知郡愛荘町

□ため池の特徴

愛荘町を含む1市3町の農地7,500haの主水源である永源寺ダムからの用水の補助ため池です。

竹原調整池の中には3本の噴水があり、イベントなどにも利用されています。

また、3mほどの石積みの流入工からは毎秒250リットルの用水が池に入ってきており、上からの眺めは迫力があります。

ダムから40km以上離れた農地への送水は時間を要するため、一旦調整池に溜め、下流229haの農地に効果的に配水しています。

用水路は、途中から地下パイプラインになっており、以前は空気が混入すると脈動現象を起こし送水に苦慮していましたが、この池のおかげで脈動現象もおさまり、タイムラグも解消されました。

関連情報

淡海湖

(たんかいこ)



全景



中学生によるエコスクール
(外来魚駆除)

ため池の概要

□ため池の所在地

滋賀県高島市

□ため池の特徴

淡海湖は、人里から4km離れた標高450mの山中に、人力により大変な苦勞の末に造られた湖面12ha、貯水量132万トンの大規模なため池です。

池の周辺は、滋賀県の「守りたい育てたい湖国の自然100選」にも選ばれ、ミズナラ、ホオノキ、カエデ類などの落葉広葉樹が豊かです。

春はマンサク、タムシバ、ホンシャクナゲなどの花が山を彩ります。夏はヤマボウシ、ノリウツギ、リョウブなどの樹木が個性的な花をつけ、またホトトギス、ツツドリ、オオルリなど多くの野鳥がさえずります。秋はこれらの葉が色とりどりに彩られます。

希少な生物や生息環境を守るため、地元中学生が外来魚の駆除や清掃活動に取り組んでいます。

この池は、淡海耕地整理組合が大正年間を費やして築いたもので、別水系の溪谷に堰堤を構築し、分水嶺の山中に1.2kmの隧道を掘って農業用水を流していますが、隧道工事では4箇所で崩落が起こるなど困難を極めました。

事業を主導した松本家(造り酒屋)は、親子2代にわたって耕地整理組合の組合長に就任しましたが、心勞により工事の完成を見るまでに2人とも他界しています。

ため池の築造と平行して100haの耕地整理が行われ、痩せた桑畑が水田に変貌し、現在では滋賀県の代表的な早場米地帯となっています。

関連情報